

## 令和5年度 みんなで支える森林づくり上伊那地域会議（第1回）要旨

開催日時 令和5年（2023年）7月26日（水）10:00～12:00

開催場所 伊那合同庁舎 5階 501・502号会議室

構成員 三木 敦朗（座長）、斎藤 真吾、高山 美鈴、田中 聡子、辻井 俊恵、富山 裕一

事務局 布山地域振興局長、倉本林務課長、佐口林務係長、上野林産係長、保科普及係長、百瀬主任森林経営専門技術員、大澤治山林道係長、瀬畑治山係長、清水担当係長、那須技師

### 会 議

- （1）令和4年度長野県森林づくり県民税活用事業の実績について
- （2）令和5年度長野県森林づくり県民税の事業内容について

#### <事務局説明>

会議事項（1）のうち「令和4年度森林づくり推進支援金事業の実績」について、資料1-1により説明

（三木座長）

今の説明に対してご質問やご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（三木座長）

それでは、まず私から質問します。中川村の保育園で県産材を使用したロッカーに更新したとのことですが、材は何を使ったのでしょうか。

（保科普及係長）

中川村の村有林内で生産された広葉樹（オニグルミ・エノキ）を使用しました。

なお、木材の生産においては、本日出席の斎藤構成員（ふじくぼ林産）にもお手伝いいただいたと聞いております。

（三木座長）

これだけ大きな物になると結構な量の木材が必要になりますね。

木質化は金属やプラスチックと違い、ワックスを塗り重ねるなどのメンテナンスがどうしても必要になります。メンテナンスをすることが前提になりますので、長い時間使用できるよう指導をお願いします。

（田中構成員）

伊那市では松枯損木事業を行っておりますが、松枯れの被害はどの程度なのでしょうか。

（保科普及係長）

一言でいえば高止まりの状況であり、被害量は上伊那管内の約三分の一の2,500 m<sup>3</sup>/年です。

この事業では特に住宅の近くなどいわゆる特殊伐採が必要な場所で実施しておりますが、住民の生活に近い場所で松枯れが発生している表れでもあります。また、松枯れ対策に係るプラスαの経費の反映が補助金では難しいため、伊那市では推進支援金を活用したところではあります。

（三木座長）

地区でいえばどこが最も進行しておりますか。

(保科普及係長)

基本的に標高の低い箇所はほぼ全域です。それが少しずつ標高の高いところに広がってきている状況で、例えばますみが丘など標高の高い箇所においても見受けられますが、天竜川を挟み東側は高遠町まで、西側は標高の低いところで全面的に被害が多く出ております。

<事務局説明>

会議事項(1)のうち、「みんなで支える森林づくりレポート(県全体の実績)」「上伊那地域の実績」「上伊那地域の取組概要」について資料1-2、資料1-3、資料1-4により説明

(三木座長)

今の説明に対してご質問やご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(三木座長)

私より質問します。資料1-2、6ページの「森林税活用事業の執行額」について、第3期の税収額約34億円に対し執行額40億円と税収額を執行額が超えていますが、これは第2期の残額を合わせての執行ということですね。その一方、35ページから始まる進捗率をみるとかなり幅がありますが、これは何に対する率なのでしょうか。税収に対するものなのでしょうか。それとも執行額や利用可能額に対するものなのでしょうか。

(保科普及係長)

それぞれの事業で目標となる指標が設定されており、それに対する進捗率としております。例えば個所数であったりとか面積であったりとか、それぞれの事業で当初に立てた目標に対するものになります。

(辻井構成員)

切捨間伐から搬出間伐にシフトし、地域産材として活用されていることは大変嬉しく思います。このような動きがどんどん広がってほしいと思いますが、搬出から地域産材に至るまでに多額の経費がかかることを実感しております。

例えば、木製遊具の導入において先ほど説明の事業では70~80万円要したとのことですが、その内訳はどのようなのでしょうか。一般の皆様気軽に使ってもらうにはかなりハードルが高く感じられるのですが。

(保科普及係長)

先ほど説明の木製遊具導入の事業は多くの保育園の実績をまとめているものです。一つ一つの金額は結び付くイメージほどではありません。ただ、南箕輪村の事例のような細かな加工を行うとすればそれなりの経費がかかっております。中川村の木製ロッカーについては、木材を山から伐り出して乾燥・加工・設置まで一式の経費ですので、ロットで作るものの導入であれば価格経費は下がりますが、個別注文ではどうしても割高感が出てしまいます。

ただ、それを乗り越えて森林づくり推進支援金を活用して事業化することで次に繋がっていくものと考えております。

(辻井構成員)

広く様々な場所で地域産材を活用されることが望ましいですので、個別の要望に応えるような加工に経費がかかるのは承知しておりますが、例えば、搬出から製材に至る工程部分に対する補助金などの支援をしていただければ、多くの人々が利用し易くなるのではないかと思います。

(齋藤構成員)

みんなで支える里山整備事業（防災減災、県民協働など）について、事業の面積に対する達成率は低いですが執行額は伸びており、これは搬出に要する経費との説明でしたが、当初はここまで搬出するだろうという予想はなかったということでしょうか。

(保科普及係長)

見通しとすれば、ここまで搬出がシェアを伸ばすとは想定しておりませんでした。ただ、昨今は木をただ伐る（切捨間伐）だけでなく利用する（搬出間伐）方向にシフトしており、それも一因と感じています。

(齋藤構成員)

林産に携わる立場とすれば、それ（捨てるよりも出して使うこと）は大変良いことと感じております。

(三木座長)

資料1-3をみると、地域で進める里山集約化事業など、上伊那のシェアが非常に高い部門があります。これは上伊那にとっては良いことですが、逆にいえば上伊那以外の地域では非常に使いづらい事業ということでもあります。広く県民から集めた税収を上伊那だけが使うのではなく、上伊那以外の地域でも同様に事業が行われることが本来の望ましいあり方と思われま。

一部の事業が上伊那でしか使われないのはどのような理由があったのでしょうか。また、令和5年度以降の第4期で、これをどう解消し全県に広げていこうと県では考えておりますか。

(保科普及係長)

上伊那のシェアが高い部門は地域的風土と、上伊那森林組合様をはじめとして取組に対する理解ある事業者のご苦勞・ご協力があつたからと考えております。

今後につきまして、今回第4期を迎えるにあたり、森林環境譲与税との住み分けについてはしっかり精査しております。あわせて、通常の森林整備の部分においても国庫補助との住み分けや、効率的な林業が可能な森林とそうでないところの住み分けなどを行いながら、森林税が広く有効に活用されるよう整備を進める必要があると考えております。

<事務局説明>

会議事項(2)「令和5年度森林づくり県民税の事業内容」について、資料2-1及び2-2により説明

(三木座長)

ただ今の説明についてご質問などがあれば伺いたいと思います。

(齋藤構成員)

資料2-1、2ページの「めざす森林の姿」についてですが、私自身も林業を志すにあたって、林業士の資格を取ったりする中で非常に課題だと思った部分が、針広混交林や里山の取り扱いを今後どうしていくかといったところであり、それを進めていくことが私たちの行っていく林業なのだろうと思い仕事に就きました。

中川村の現状をみても本当に先々までの課題であり同意する部分ですが、具体的に進めるには非常に難しいものがあります。おそらくこれまでの林業が経験したことがない過程ではないかと思ひます。

今まで植えたものをどう更新していくのか、これまでとは違う里山との付き合い方をどう広げていくのかなど、大変な課題だと思いますが、何か方針やビジョンはあるのでしょうか。

(倉本課長)

めざす姿は高い目標を掲げておりますが、実際には(取組を)進めながら、例えば地域の皆様と一緒に考えながら同時に進めていくという形になるかと思えます。かといって、高齢級の森林は今伐採して使わないと使えなくなってしまうので、使いっぱなしではなく、主伐・再造林を進めることがCO2吸収の意味もあり重要と考えております。

ただ、全ての箇所を同じようにはできないので、林道・作業道が整備されている部分など施業しやすい10万haは積極的に主伐・再造林を進め、そうでない箇所は自然の治癒力や人間の知恵を使いながら森林の維持を進めたいと考えております。

市町村の課題や地元の林業関係者のみならず、地域から森林空間をこう使いたいという要望などを踏まえ、みんながWin-Winになることを理想とし、ベストのところを選択していきたいと考えております。

(斎藤構成員)

今話を聞き一点思うことがあります。私は法面を皆伐して崩落箇所を再森林化することを実験の意味も含めて仕事で行っていますが、恐らく難しい内容ですので、(県の)ノウハウができた時には情報・方法の共有をしていただきたいと思います。

また、中川村では家の裏山を5反歩程度の人工林にしてしまったがそれ以外は里山など、搬出できない距離感ではないが集約化はできない人工林が並んでいる箇所が多くあります。そういうところを里山化に戻すことへの支援があれば嬉しく思います。

(三木座長)

2ページの絵をみると、①②人工林や④天然林には面積の記載がありますが、③里山など身近な森林には面積の記載がありません。計算すると2万haほどですが、これはあえて書かなかったのではないかと思います。

従来の林業、木材生産ができるかどうかの視点からみると、家の裏山に人工林が少しあるようなものは、単純に考えれば「②森林経営に適した森林以外の森林(人工林)」に分類されるものですが、ここでは「③里山など身近な森林」に分類されているのではないかと思います。

②の場合は少し強度に間伐をして広葉樹の侵入を促すような、針広混交林化を進めていくのですが、③の場合は必ずしもそうではなく、他の方法もあるのではないかと思います。ただ、他の方法が編み出されているかという点、確固たるものはありません。裏を返せば、いろいろなチャレンジをしていかなければならないものであり、そのために③のところに使われる森林税があるのではないかと思います。この部分は、これから手法を編み出していかなければならないところかと思えます。

(富山構成員)

資料2-1、4ページの「林業・木材産業の振興」について、需要がなければ生産もないかと思えます。県としても県内消費を増やしたいということで、ぜひお願いしたいと思えますが、県内の需要を増やすうえで住宅・土木の着工数を増やさければ、ダイナミックに消費しないと思われず。現在、県の流通はかなりの部分が合板に向けてのものですが、昔は木材住宅の受給率100%の時もあり、何かやれることがあるのではないかと思います。県だけでできることではありませんが、皆で知恵を出し合って、ぜひ県内の消費量を増やしていただければと思います。

(倉本課長)

なかなか難しい課題ではありますが、いただいたご意見は県庁とも共有させていただきます。

(布山局長)

貴重なご意見をありがとうございました。今は林務部の立場として回答しましたが、建築

の分野における県産材の活用については、建設部とも意見を共有したいと思います。（県の施策で）ゼロエネ住宅というのがありますが、その中で県産材というのも重要な要素でありますので、そういった観点も踏まえ、消費が促進できるよう伝えていきたいと存じます。

（辻井構成員）

地域産材利用について、建築に関してももっと使いやすい形になればよいと感じております。金額の問題が第一にはありますが、県産材として認定が取れた木材は補助金事業にも使いやすい形になっている一方、認定が取れていない少量のものは使いづらいことが建築業界では数多くあります。

別件ではありますが、建築士会に丸太から制作をしたいという話があり、建築士は普段製材された材を多々扱っているものの皮つきの丸太のまま入手や加工という林業は専門外で、いざ林業の方とコンタクトをと思うと、木に一番近い建築の分野にいる私たちも林業の方との接点がありませんを感じました。木のおもちゃや家具など何か木工作をやりたいと、実際に木に触れ、加工し作ってみることで、木の良さを体験したり体感したりすることはとても良い経験です。こういった機会が、市民の人たちにも広がっていけばよいと思い、周りには伝えていくところです。

木に触れたい、何かしたいという皆様の要望に、この分野なら協力できますといったマッチング（林業士、木材調達、建築、チェーンソーの取り扱いなど）が気軽に探せる場が必要だと思います。スペシャリティ向きではなく、むしろ素人が手を出しやすい、身近にある端材や丸太を使って体験したりすることができるなど、興味を持った時に気軽に機会が提供できる仕組み（Web サイトなど）があればよいと思います。

（三木座長）

森林税で対応するとすれば、どのメニューがそれにあたりますか。Ⅲ－８（多様な林業の担い手の確保・育成）とかⅤ－１３（森林づくりを推進するための普及啓発、森林税事業の評価・検証）あたりでしょうか。

（倉本課長）

三木座長からのご質問ですが、「森林サービス産業総合対策事業」で考えていくものと思います。また、辻井構成員からのご意見ですが、県林務部で把握している林業士会や林業研究グループのメンバーであれば、こちらで繋ぐことができると思われれます。材料の調達についても、例えば治山工事などで発生する支障木のあわせん情報などを逐一サイトで発信するなど、職員数も限られており難しいかもしれませんが機会をみて発信し、できる限り対応できる部分については対応していきたいと存じます。更に今後そういった情報が発信できるようサイトの整備も考えていきたいと思えます。

（三木座長）

サイトにまとめるというのも一つの方法ですが、もともと県には資格を持った指導員がいっぱいいます。様々な民間からのニーズがあったときにはまず「上伊那ではこちらにお問い合わせください。」といった窓口が本来あるはずですが、それが周知されていないのが課題であって、窓口を紹介することにより指導員が「チェーンソーの研修が林業総合センターであります」とか「地域にはこういった業者がいますので指導いただける機会があります」と繋がりますので、今でも十分対応可能と思えます。その窓口がはっきりしていないことが課題なのかなと思います。これは特にお金をかけなくてもできますので、お願いしたいと思えます。

私からの質問ですが、資料２－２、４ページの「県民税活用事業一覧」の合計額６億２千万円について、税収は１ページに記載のとおり６億９千万円とあります。基本的には税収をその年の事業として計画・執行するものと考えますし、第３期からの繰越も１億円ほどあるのですが、税収以下の計画を立てているのはなぜですか。

よく言われますように、搬出に多額の経費がかかるとか、松枯れに伴う特殊伐採が非常に増えており費用が掛かり増しになっているなどが課題として掲げられますが、そうであるな

らば予算をつけてそれらを実行できるようにすればよいと思われるのですが。

(保科普及係長)

資料1-2、32ページ下段「森林づくり県民税残高の推移見通し」に記載がありますとおり、令和5年度は、単年度の税収以内額の当年度予算額となっており、残高は増える見込みですが、令和6年度以降は防災・減災のための里山等の整備による間伐や、第4期から新たに取り組む主伐・再造林の加速化などの取組に活用する方針です。

これは、今回第3期から第4期への検討段階において事業執行計画を立てる必要があったからです。どうしても第4期当初予算の枠については以内額で設定せざるを得ない状況であり、予算作業上の都合ということです。

なお、年度途中の執行状況をみながら、必要な事業については基金の積み残しを充てるなどの措置が当然考えられます。

(三木座長)

森林組合などの事業体からすれば、事業が安定的・計画的に実施されることで今後のプランが立てやすくなります。例えば、第4期の終わりに近づき予算執行しなければならぬとして突然実施面積が増えても、事業者とすれば対応しづらいですので、毎年恒常的な執行をしていただければと思います。

(斎藤構成員)

資料2-2の「林業人材の確保・育成」について、裾野の拡大は私も大切なことと感じております。その中で「木曾谷・伊那谷フォレストバレーの形成」とありますが、中川村でも多数の信州大学農学部OBの方が、いったん別の場所で就職した後に伊那谷へ住みたいと戻り、生活しております。それを聞くと、予算の執行率についても多くの割合を伊那谷が占めておりますので、伊那谷は森林に関わる人材が豊富なのだと個人的に思っています。

(資料1-2、12ページの)「里山整備利用地域の認定状況」について、南信州が一番多くなったのは最近なのでしょうか。(前は上伊那が一番だったような…。)

(倉本課長)

事業が始まった頃は上伊那が多数でしたが、途中から南信州が伸びてきました。ただ、上伊那は先進的な里山づくりを進めていると認識しております。

(斎藤構成員)

南信州も含めた伊那谷地域は意欲にしても担い手にしても、潜在的能力が非常に高いと認識しています。この地域が全国的にみてプッシュできる要素が伊那谷にあるのであれば、それは「森林」ではないかと思えます。林業県というほど林業県とはないと(個人的には)思うのですが、それにも関わらずこの地域にエネルギーが集積していることは凄いことであり、伊那谷の優れたポイントだと思いますので、ぜひ長い目線で育てていただければと思います。

(倉本課長)

力強い応援の言葉として受け取っていきたく存じます。この「木曾谷・伊那谷フォレストバレー構想」について、令和5年度は協議会(団体)をどう作っていくかを考える年ですので、今いただいたご意見は上伊那にこのような人材があるということに県に繋げていきたいと思えます。

(三木座長)

「木曾谷・伊那谷フォレストバレー構想」というのは、木曾の林業大学校・上松技術専門学校・木曾青峰高校、塩尻の林業総合センター、上伊那の南信工科短期大学・上伊那農業高校・INADANI SEES・信州大学があり、この地域を林業及び木材産業関係と繋いで盛り上げようという構想です。

上伊那地域は森林に注目しての移住希望者が多いのですが、その一方、林業が物凄い生産

量を誇っているということでもないのが特徴かと思います。こうした中、伊那谷のポテンシャルとすれば、森林の中で色々なチャレンジができることではないかと…。そういった環境が（移住者増の）ひとつの要因ではないかと感じられます。

そう考えると、第4期事業で「開かれた里山の整備事業」や「森林サービス産業総合対策事業」が設けられていることは楽しみなどころでもあります。木曾谷・伊那谷地域がこれらの予算を使い、この5年間でどのような地域づくりをするのかということになりますが、可能性もありますし予算の裏付けもできたところですので、おおいに期待したいと思います。

#### <事務局説明>

会議事項（2）「令和5年度森林づくり県民税の事業内容」について、資料2－3により説明

（三木座長）

ただ今の説明及びこれまでの説明についてご意見、ご質問などがあればお願いします。

（高山構成員）

各事業について、始めるときはよいのですが、例えば、高速道路にある橋やトンネルのように、それが何年も経つと傷んでくるものの、メンテナンスにはなかなか手が回らない状況になりがちです。森づくりも同様で、手が入らず放置された森林について、気づいた人がこうしてほしい、ああしてほしいと思っても、誰にそれを言うかわからず、個人で（市町村に）言っても「地区でまとまって言ってくれ」と返されてしまいます。それで手入れをやめてしまう事例もありますので、もう少し行政が近づいてもらえると嬉しく思います。

一例として、高遠線（国道361号）の段丘の林に通学路があり、子ども達が四季を通じて楽しんでおり素晴らしい環境ですが、50年を超えたケヤキの古くなった枝がかかっていたり落ちてきたりして危険な箇所があります。過去に林務課で道路脇に柵を作ったようですが、その後手が入っていない状態です。要望があって整備はしたのですがその後の変化をみる機会がなく、誰かが言わないと気付かない状況です。時折、過去に整備したところがどうなっているか、植樹祭などで実施する植林後の状況がどうなっているのか、林務課でなければボランティアなどの手を借りて振り返ってみることも大切だと思います。

これとは別に、最近「長野の林業」という冊子に今般の木材価格が下落しているとのデータが掲載されておりました。一時期はウッドショックで値段は上がるが木材はないといったこともありました。最近では、燃料ほか色々な物価が上がっているにもかかわらず、木材価格が下がっているのはなぜでしょうか。

（保科普及係長）

木材価格の件ですが、最も価格を左右するのは住宅着工戸数です。着工戸数が伸びれば需要が上がり価格も上がるような、農産物と同様に市況で左右されるもので、固定価格が無いものです。景気が良くなることが一番の起爆剤と思います。ただ、下がり基調ではありますが、ウッドショックなどで価格が高騰した以前よりはまだ高い状況です。

価格が今後どうなるかは不透明ですが、林業関係者は効率化を図り収益性を上げる努力をしているところです。

（高山構成員）

先日地元の大工と話をしたところ、住宅の着工戸数が劇的に減っていると聞いたところですが、リノベーションによる住宅の需要が非常に伸びているとも聞いております。環境にも優しいとのことですので、ぜひそちらでも木材が利用されると嬉しいですね。

（三木座長）

子ども達の通学路は安全が補填されている必要があります。こういう場所は森林税を活用して整備できますので、対象地を探し出して事業を執行していただければと思います。

<事務局より連絡事項>

- ・今後のスケジュール（10～11月頃第2回会議（現地視察）を予定）
- ・「開かれた里山の整備事業」について地域会議の意見聴取を行ったうえでの実施を予定

（三木座長）

以上で本日予定されていた議事は終了になります。全体を通してご意見はありますか。

（高山構成員）

会議資料ですが、膨大な資料を直近に送付されても読み切れない状況です。また、これだけの資料をコピーして郵送するのも大変かと思いますので、林務課のホームページなどに掲載して構成員がそれを閲覧するよう連絡をとればよいのではないかと思います。

（三木座長）

資料についてはそれほどの枚数ではないかと思えます。ただ、事前に皆様に資料を送る際、全部揃っていないなくてもできた部分のみ随時送付し、間に合わない部分は当日配付するなどの工夫はできるかと思えます。事務局ではそのあたりも検討していただければと思います。

（三木座長）

活発な議論をありがとうございました。

今回は第3期までの森林税の話題が中心ですが、第4期がこれから始まりますので、森林税の使い道に関してきちんとチェックし、こういう使い方が県民のためになるということを申し上げていく姿勢が必要と思えます。

引き続き会議や現地確認の際、皆様のご意見をいただければと思います。

以上